

ハラルへの取り組みを通じて 日本とイスラム教徒の交流を促進

アクマル・アブ・ハッサン
マレーシア ハラル コーポレーション株式会社
代表取締役

マレーシア首相から表彰

私が留学生として初めて日本に来たのは一九九〇年、それ以来二二年間、日本と関わりを持って生活してきました。日本の銀行、マレーシア国際貿易産業省などでの勤務を経て、東京で二〇〇九年マレーシアハラルコーポレーション株式会社(MHC)を設立し、ハラルのコンサルタントや商品開発などを行っている他、国際ハラル認証申請代行をしています。

日本においてハラルを構築するための取り組みなどがマレーシアでも評価され、平成二四年一〇月一日、クアラルンプールで開催された「東方政策三〇周年記念式典」において、ナジブ・ラザク首相から表彰して頂きました。



首相(右)との写真が現地紙に掲載

審査員特別賞を受賞

その後、日本にて、農林水産省主催の「第四回フード・アクション・ニッポン・アワード2012審査員特別賞」を受賞しました。



「フード・アクション・ニッポンアワード」は、食料自給率向上のための取組「フード・アクション・ニッポン」の一環として二〇〇九年度に創設され、毎年食料自給率向上に寄与する企業・団体等の取組を公募し、優れた取組が表彰されます。

審査員特別賞は、規模や実績によらず食料自給率向上に向けた取り組みとして先進的である賞です。

弊社は、国産品の消費を、先細りしていく日本市場から巨大なイスラム市場へ進出に推移していくこととして、ハラル事業に取り組みんでいます。その取り組みが、食料自給率向上に資する先進的事例であると評価

され、このたび審査員特別賞の受賞となったようです。

マレーシアに続く日本の農林水産省からの受賞で「日本とイスラムの架け橋になりたい」という二〇年越しの願いと努力が、一つの形になったように思います。

日本製品輸出の足組み

私は長く日本で暮らしている者として、優秀な日本製品(Made in Japan)をもっと海外へ、特にイスラム圏へ輸出していくことへの想いを強く抱いています。

この度、ハラル認証取得が最も困難とされているマレーシアへMade in Japanを輸出できる足組みを整えました。

膨大な時間と費用をかけて、ハラル認証を取得したとして、果たしてその製品が売れるのか、採算が合うのかと考える企業は多数あると思います。実際に九州地方では取得した認証を更新せずに、ハラル市場から撤退していく企業もあると聞きます。

そこで、弊社は現在「マレーシアの大手日系スーパーにてのテスト販売」を、推奨しています。国際ハラル認証を申請するためのテストケ

スとして、弊社のローカルハラル認証でマレーシアの日系スーパーへ商品を並べて頂きます。

弊社の現地スタッフによって届けられる「現地の声」は、輸出前の一番良いリサーチになるのではないのでしょうか。

アンテナショップの概要は次の通りです。

基本方針

目的 イスラム圏輸出のための最初のステップとして、マーケティング調査を図る。

基本コンセプト Made in Japanとハラルのダブルブランドとして、イスラム市場進出の感触を図る。

運営方針 Made in Japanの商品を効果的に現地に紹介する。フィードバックを逐次販売に活用していく。

テスト販売までの流れ

①企業よりMHCへ商品のリーフレット提出、原材料情報提出、サンプル提供②MHCよりリーフレット翻訳、原材料チェック③指定流通経路商品の輸出④テスト販売開始

現地にはイスラム教徒スタッフを常駐させ、月に一度フィードバックを送ってもらいます。納品から二ヵ月後にお客様に売上額を送金します。

日系スーパーテスト販売のメリット
・英語、マレー語、中国語の翻訳サービスにより、在マレーシア全ての方に商品をPRすることが可能。
・小ロットでのテスト販売が可能。
・毎月のフィードバックを材料にイスラムマーケットのニーズを的確にとらえることができる。

費用の内訳
・期間 六ヵ月(延長可能)
・販売代行費用 五〜七万円・月
・諸経費 展示費用×二ヵ月分
*お問い合わせはMHCへ。
Tel. 03-6869-1046
E-mail: sales@mhala.jp

私の母国マレーシアでは日本と同様にMade in Japanへの人気は高く、多くのイスラム教徒の人々がダブルブランドを待っています。私を育ててくれた二つの祖国への恩返しを思いを込めて、今後もハラルを通じて、日マ両国のために働いていきたいと思っています。

(本人談・文責編集部)